

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第470号 平成25年1月10日

## 合格祈願まで代行！？

いよいよ受験シーズン到来です。

大学、高校を受験される皆さんは、文字通り追い込みの真っ最中というところだと思いますが、それぞれ皆さんの夢が叶うよう祈っています。

勿論、どんなに努力してもそこに結果がついてくるとは限りませんので、最後は神頼みという心境は良く分かります。今年も、神社の境内には合格祈願の絵馬がずらりと並んでいます。その絵馬には1字1字、それぞれの願いや思いが込められているからこそ奉納にも意味があると思うのですが、最近、こうした合格祈願を代行するサービスがあると聞いて驚きました。

朝日新聞の記事（1月4日付）によると、「オンデマンド祈願」と銘打った代行サービスをしている業者が東京都台東区にあるそうで、奈良県のお寺などで修行を積んだという「修験者」が、依頼者の願いを書いた護摩をたいて祈願し、その様子の動画をネットで流すのだそうです。

1回の依頼で3千円というのは、自分が直接出かける手間暇を考えると安いのかも知れませんが、業者の代表者は「時代に即した祈願の形」と胸を張っているそうです。

ネットで調べてみると、こうした代行サービスは沢山ある様で、それだけこのサービスを利用している方々が多いという事でもあります。実際、体験者からは大願成就の喜びの声が多く寄せられており、ホームページを見るとご利益満載という感じになっています。

感覚の違いといってしまうえばそれ迄ですが、私などは、幾ら日本の神様は寛容だとはいえ、そんなお手軽な感じで神様にお願いしたとしても利益があるとは到底思えません。

合格祈願の代行サービスについて、神社本庁では「昔から、病気の人に代わっての回復祈願や、遠方の孫のために祖父母が合格祈願に出向くことなどは一般的だった」ということであり、祈願の代行そのものは容認していますが、「神域にある社塔に自ら参拝することが基本である」との立場で、全国の神社には、ネットでの祈願募集を自粛するよう求めているとの事です（1月4日付朝日新聞）。

そもそも、神様に祈願するというのは他力本願に外ならない訳で、そういう意味

からすると、祈願代行も他力本願の行き付く先ともいえます。

「困った時の神頼み」ではありませんが、人々は何か事あるごとに神様に手を合わせ、祈願して来ました。勿論、神様にお願いしたからといってその通りに旨くいくとは限りませんし、むしろ、神様にお願いしたけれども旨く行かなかったという事の方が多いと思います。それでも、多くの人々が神様に祈願するのは何故なのでしょう。

「人事を尽くして天命を待つ」という言葉がありますが、私は、神への祈りというのは、実はそういう心境なのではないかと思っています。

「自分としては、持てる力の全てを出し切って努力したので、事の成否は天の意思に任せよう」という気持ちを、神様に祈願するという形を取って表していると考えるべきで、何の努力もせず、ただ結果だけを祈願しても、それは単なる気休めに過ぎません。

そうはいつでも、受験生にとっては藁をもつかむ気持ちだと思いますので、やれる事は何でもやっておきたいという事でしょう。そのお気持ちは分かりますが、中には悪質な業者もいるそうですから、くれぐれも気を付けてください。

(塾頭：吉田 洋一)